

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 爽風館 高等学校	
学校教育目標	生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、調和のとれた豊かな人間性を育み、社会に有為な人材を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い。 ・(共通)現状を把握し多様な生徒のニーズに対応するため様々な教育課題に取り組んでいる点は大いに評価できる。 ・(共通)教育目標等に抽象的な表現が多いため、具体的かつ実現可能な取り組み指標を作成することが必要である。	(定)毎月発行する「On the Breeze」を活用して、スクール・ポリシーを生徒へ向けて周知していく。 (通)スクール・ポリシーの効果的活用 ①常時、「Monthly Letter」に具体的な取組指標と共に掲載。また、担任が学期初めのHRA等で取り扱う。 ②高校説明会、学校見学会(年間24回)で紹介をする。
	PDCAサイクル	〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・(定)生徒のサポート体制が確立しており、生徒支援に対する教員間の共通理解が図られている点は素晴らしい。 ・(定)三部(午前部・午後部・夜間部)あるため、どの部の生徒も適切な分掌担当教員に相談できるよう、各部の分掌担当教員を生徒に周知させる体制づくりが必要である。 ・(通)通信制内で新たに分掌体制を作り運営会議を実施するなど、組織的な対応を行っている点は高く評価できる。 ・(通)半年ごとに短期のPDCAサイクルを回し、その結果をすぐに後期に活かしている点も高く評価できる。	(定)健康教育部を中心とした組織的な支援体制を継続する。 (定)各部に担当教員を配置し、生徒が安心して相談できる環境をつくる。 (通)組織改革について、①分掌主任が役割分担と進行管理を把握し、議題については分掌会議を経て運営委員会へ提出される体制づくりをする。②仕事の効率化のために、教務の中に受講登録業務を入れ業務内容を見直す。 (通)PDCAサイクルについて、①前期終了後にPDCAサイクルを回す体制の維持。②令和5年度の分掌の課題を引き継ぎ、令和6年度に確実に改善されるよう体制を整える。
	社会との連携・接続	〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・(共通)入学希望者に個別の学校見学で対応している点は、生徒と学校のマッチングを図る方策として非常に素晴らしい。 ・(共通)学校見学での対応は学校側の負荷が増すため、運営を適切に管理していくことが必要と思われる。 ・(共通)HPでの掲載情報を在籍する生徒がすぐに見つけることができない状態であるため、早急な改善が必要である。 ・(共通)QRコードを利用したアンケートにより、回収率を向上させる取組は、一定の成果も出ており、評価できる。 ・(共通)保護者のアンケート回答率が低いため、特に通信制の保護者の意見を収集する方策を強化する必要がある。 ・(共通)PTA廃止に伴い、アンケート等で得られた保護者の意見への回答・対応についての方策を検討する必要がある。 ・(定)園芸や陶芸教室へのオブザーバー参加など地域との連携が図られている点は高く評価できる。 ・(通)学校からの「Monthly Letter」等を紙ベースだけではなく、電子媒体による発信を行っている点は大いに評価できる。	(定)学校見学の継続実施で、入学希望者への本校理解を深め、入学後のミスマッチの防止に努める。 (定)学校HPの刷新を図り、必要な情報をタイムリーに提供できるよう改善する。 (定)保護者アンケートの内容及び実施方法を見直し、回収率を向上させ、学校関係者の声を学校運営に活用する。 (定)授業における地域との連携については、危機管理上、当面の間は実施しない。 (通)学校見学会と説明会について(計24回)、 ①教頭及び分掌主任が分担し、本校だけでなく各地区での説明会を実施可能にする。 ②中学校への参加をHP等を通じて呼びかける。 (通)情報発信と意見集約について、 ①保護者アンケートの実施とQRコードを活用したアンケートの継続実施。 ②計画的なHPの更新と掲載内容の精選。 ③「Monthly Letter」のレイアウトの改善。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	〇授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・極めて良い。 ・(共通)ICTを活用した授業やスクーリングは適切に実践されており、授業の効率化につながっていると評価できる。 ・(共通)メタモジなどのICT研修をレベル別に積極的に実施している点も素晴らしい。 ・(共通)互見授業等を通して対話的な学びや深い学びを実現するために、意欲的に取り組んでいる点は高く評価できる。 ・(定)総合的な探究の時間のテーマを生徒が主体的に選び、その成果発表を学校行事の中に組み込んで実施している点は素晴らしい。 ・(定)個別指導においては、生徒の満足度も非常に高く、評価できる。 ・(定)学習習慣が定着していない生徒が多い点が課題であり、学習指導の方策については今後検討する必要がある。 ・(通)スクーリング用教材作成や添削指導が丁寧に行われており、非常に優れた個別指導を実践できている。 ・(通)採点補助システムを効果的に使用し、教師の負担軽減と丁寧な添削指導を両立した点は優れた取組である。	(定)多様な生活スタイルの本校生徒にとって、1日の中で学習に充てる時間の中心は授業である。今後、授業展開の中で振り返りの充実や単元テストを効果的に実施する。また、学習アプリによる教材の蓄積等の工夫をすることで、学習内容の定着度の向上を図る。 (通)スクーリング改善とICT化について、 ①各研修を通じてスクーリングの改善とレポート添削改善に取り組む。 ②ICT推進プロジェクトリーダーを中心にして、「ICT推進3か年プラン」を基に教員のスキル向上の取り組みを進める。また、自動採点システム等、職員の負担軽減につながる取組も同時進行する。
	いじめ・不登校等の対策	〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・(共通)教員がいじめに対する危機意識を持ち、早い段階でスクールカウンセラー等と連携して組織的に問題に対処している点は他校の模範となる素晴らしい取組である。生徒が共感しやすい講師を招いた人権教育講演会も高く評価できる。 ・(定)人間関係プログラム等により、教員-生徒間および生徒間の信頼関係の向上に努めている点は大いに評価できる。 ・(定)通級指導を授業時間内に組み込んで実施している点も、大いに評価できる。 ・(定)人間関係プログラムや通級指導を研修や互見授業を通して全職員に共通理解を図っている点も高く評価できる。	(定)月1回のいじめアンケートを継続実施し、生徒が安心して学習に取り組める環境を維持する。 (定)通級指導のノウハウを各授業で活用しながら、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 (通)いじめについて、 ①校内いじめ対策委員会を中心に、表面化しにくい通信制のいじめ問題に組織的に取り組む。 ②年間を通じていじめアンケートを回答可能な状態にする。 ③年間を通じ、SC、SSWの活動をHPと「Monthly Letter」等で紹介する。
安全・安心な教育環境	安全管理	〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・(共通)危機管理マニュアル等については定時制用と通信制用の2種類を用意し、状況に応じた適切な内容が記載されている点が、素晴らしい。 ・(共通)避難訓練は行事化されているが、その日程にすべての生徒が参加することは難しいため、不参加の生徒が情報を共有する方法を検討する必要がある。 ・(通)地域のスクーリング会場ごとの危機管理マニュアルを作成している点も大いに評価できる。 ・(通)HPの閲覧回数が少ない定時制の生徒への、危機管理マニュアルの周知が不十分である点は改善の余地がある。	(定)出席率の高い各期の初めに避難訓練を実施し、避難経路や避難場所の周知を図る。 (定)毎月発行する「On the Breeze」を活用して、生徒に周知していく。 (通)危機管理について、 ①HP等を通じて避難訓練参加者促進すると共に、避難訓練不参加の生徒については「Monthly Letter」やHPを通じて情報を共有する。 ②各地区のスクーリング校については、協力校の危機管理マニュアルを参考に毎年見直しをする。
	働き方改革	〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・(共通)ICTを活用した業務改善や超過勤務の減少により働き方改革に積極的に取り組んでいる点は大いに評価できる。 ・(通)生徒に対するスクーリング教材や添削は紙や郵便を利用した方法であるため、通信制におけるICT化について今後も継続的に検討する必要がある。	(定)ペーパーレス化をさらに推進するよう、工夫改善を行っていく。 (通)郵便から電子媒体への移行について、 ①予算的な問題もあるため継続して県へ要望する。 ②既に導入している学校の情報を把握し、ICT推進PTを中心に可能な範囲の準備を進める。
信頼される学校づくり	学校課題の解決に向けた取組等	〇単位制の定時制・通信制の特色を活かすICT活用による教育活動 〇家庭や地域と連携した生徒支援の方策 〇生徒の主体性の育成	・(共通)単位制の定時制・通信制の特徴を活かしたICT等を活用した先進的な教育活動の実践に期待する。 ・(共通)学校から生徒への的確な情報発信が重要であるため、HPやSNSを活用した効果的な方策を今後さらに検討してほしい。	・先進的な教育活動 (定)個別最適な学びが充実するよう、ICT等の活用を推進する。 (通)ICT推進プロジェクトリーダーを中心に、ICT推進3か年計画を基に取り組みを進める。 ・情報発信 (定)HPおよび39メールを活用し、適時に情報発信できる体制の構築を図る。 (通)HPについては、教頭を中心に各分掌から計画的に情報発信する。 ・PTA廃止 (定)教育相談に関する保護者との懇談会を実施する。 (通)「保護者のつどい」(仮称)を開き、保護者間の情報交換の場を設定予定である。 ・家庭との連携 (定)毎月発行する「On the Breeze」を活用して、学校の情報を発信する。 (通)保護者アンケートを実施し、HPと「Monthly Letter」を通じた連携を図る。
	総合評価		・(共通)多様な目的を持ち、年齢層も幅広く、様々な問題を抱えている生徒一人ひとりに対して、きめ細やかなサポートや教育活動を実践している点は素晴らしい。 ・(共通)他の高校とは異なる学校経営が求められる中、全国の単位制高校との連携を強化し、新たな学校経営モデルを構築することを期待している。 ・(共通)今後、発表されるスクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づき、生徒が爽風館高校でどのような力を習得することができるのか(もしくは習得すべきなのか)を示した達成目標を設定してほしい。 ・(定)制服もなく、自由な校風という学校の魅力を損なうことなく、社会的ルールやマナーを身につけさせるための生徒指導のあり方について今後検討する必要がある。 ・(通)通信制の在籍者数がこの5年で1.5倍に増加しており、社会のニーズに応える高校としての存在価値が高まっていると感じる。個々の状況に応じた熱心で丁寧な教育活動を実践している点も高く評価できる。 ・(通)スクーリングに参加する生徒数が想定を上回る講座も存在するということから、「面接」という機能を果たすことが難しくなっており、個に対応したより丁寧なスクーリングの方策について今後も継続的に検討する必要がある。	
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教育活動においてスクール・ポリシーを踏まえた取組検証を行い、現行の取り組みに対する課題の洗い出し、整理をし、より効果的な教育活動の企画・構築に邁進していく。</li> <li>働き方改革、個別最適な学び、思考力・判断力・表現力を伸ばす学習活動の展開等において、ICTのより一層の活用は避けて通れず、今後はツールとしての利用にとどまらず、教育DX化を意識した多重・複合的なICT活用を推進していく。</li> <li>養育環境の厳しい生徒や自己肯定感の低い生徒等、支援が必要な生徒が多く在籍しており、チーム学校による組織的・継続的な支援アプローチを職員の共通理解の下に定着させていきたい。そのためにも多様な主体との連携・協働を一層図っていく。</li> </ul>			